

平成28年度 第46回関東中学校バスケットボール千葉大会派遣報告書

審判員名	管 祐介	所属	ミニ連
大会名	平成28年度 第46回関東中学校バスケットボール千葉大会		
期 間	平成28年 8月9日(火) ~ 8月11日(木) ※8月9日(火)は審判会議および審判ミーティングも含む。		
会 場	船橋市総合体育館(船橋アリーナ)		

スケジュール

期日	内容	場所
8月9日(火)	10:00 審判受付	船橋市総合体育館: 体育館入口
	10:30 審判会議	船橋市総合体育館: 選手控室 I
	11:00 審判ミーティング	船橋市総合体育館: 選手控室 I
	14:30 競技開始	船橋市総合体育館
	17:10 競技終了	船橋市総合体育館
8月10日(水)	9:30 競技開始	船橋市総合体育館
	17:30 競技終了	船橋市総合体育館
8月11日(木)	9:30 競技開始	船橋市総合体育館
	16:10 競技終了 最終試合ミーティング終了後 大会最終ミーティング	船橋市総合体育館

ミーティング内容

○「マンツーマンディフェンス推進 審判の対応について」

指名審判員 東京都 蒲 健一 氏

今大会は全試合2名のマンツーマン・コミッショナーを置いて試合を運営することになっており、事前に配付された「マンツーマン・コミッショナー運用マニュアル」と審判の対応の資料をもとに、蒲氏から具体的なケースの話も含めてお話しをいただいた。

①マンツーマン・コミッショナーと審判とのコミュニケーション

- ・担当するマンツーマン・コミッショナーとは試合が始める前にあいさつをし、TO席後方にコミッショナー席があることを確認する。
- ・必要があればコーチに注意を促す場面とテクニカルファウルを宣する場面について、事前に簡潔に確認しておく。

②審判員の運用について

- ・ゲーム中、マンツーマンディフェンスをしているかどうかの判断は、すべてマンツーマン・コミッショナーが行う。ただし、スローインの際、マッチアップしていないDefに対しては声をかける。
- ・マンツーマン・コミッショナーの判断は絶対であり、審判はそれに従う。
- ・マンツーマン・コミッショナーが赤色旗を振った時には、その後最初にゲームクロックが止まった時に、主審がマンツーマン・コミッショナーを招き入れる合図をする。その後、両チームのコーチをTO席に前に集め、マンツーマン・コミッショナーの説明を待つ。このとき、副審はプレイヤーの管理を行う。(その場で待たせ、終わったらすぐにリスタートができるような準備をする。)
- ・2回目の赤色旗が振られた時には、その後最初にゲームクロックが止まった時に、1回目と同様な流れのあと、該当チームのコーチにテクニカル・ファウルを宣する。
- ・試合終了間際(第4ピリオド・延長時限)残り2分切っからの警告は、1回目でテクニカル・ファウルとなる。第4ピリオド終了の合図の後、フリースロー1本が行われる場合もある。

マンツーマンのお話以外にも蒲氏が昨年度までいたドイツのお話をしていただいた。ヨーロッパの学校では、基本的にスポーツは学校が終わってからのクラブチームで行っている。同じ中学校世代のチームでは、マンツーマンしか教えておらず、1対1の練習やシュートの練習を中心に行っている。ドイツ(ヨーロッパ)と日本との違いを分かりやすく教えていただき、大変勉強になった。

実技				
担当ゲーム①	期日	平成28年8月9日(火)	男子	1回戦
	対戦カード	川口神根(埼玉) 対 大和田(千葉)		主審
	相手審判	古屋 勝司(山梨)		

○プレゲームカンファレンス

①2人の協力について

- ・視野の分担(トレイルとリードのスペースの捉え方)
- ・ラストタッチの見極め(確信がもてない時お互いにアイコンタクトをとる)
- ・相手の立っている位置に応じて、自分が動く位置を変える。(ボクシング・イン)

②手の使い方について

- ・ボールマンに対するDefの悪い手の使い方について早い段階で整理する。
- ・ポストプレイにおけるOffとDefの手の使い方(不当なポジションからの接触については厳しく取り上げる)

○ミーティング 長谷川 裕 氏 (神奈川県)

- ・良い位置どり、良いアングルを捉えられているときは、良い判定に繋がっている。
- ・主審として、相手審判と協力して試合を運営しようとする姿が見られた。ただ試合の中で、もっと主審として試合を管理できる場面があった。
- ・取り上げたヴァイオレーションの中でいくつか成立していないものがあった。
- ・接触到過敏になりすぎて、影響がないものを取り上げていた。もう少しチームのやりたいことができているか、選手の意図した動きができているかを見極められるとよい。

担当ゲーム②	期日	平成28年8月10日(水)	男子	2回戦
	対戦カード	神栖三(茨城) 対 松葉(千葉)		主審
	相手審判	武田 理輝(群馬)		

○プレゲームカンファレンス

①昨日の課題を生かす

- ・判定をする際にOffやDefの情報を早いうちに仕入れるようにする。
- ・ヴァイオレーションの見極め

②手の使い方について

- ・長身選手に対する手を使っての守り方
- ・ドリブル中のプレイヤーに対する手の使い方の整理

○ミーティング 岡崎 武史 氏 (千葉県)

- ・1試合を通して主審として引っ張る姿が見られたので良かった。
- ・相手の笛が鳴らないときにうまくカバーして鳴らせていた。
- ・何か起こった時にどちらかの審判が判定していたので良かった。
- ・動きながら判定してしまったがゆえに、判定が間違えていたものがある。
- ・レフリースタイルをとるタイミングをもっと吟味してほしい。

全体の感想

A級に昇格して初めて関東大会に派遣して頂きました。これまで公認として関東大会に派遣をしていただいておりましたが、上級として今までとは違って最終日の割り当てを頂けるようにという思いで当日を迎えました。ゲームの中では、「主審」としてどう試合を運営するかの重要性を一番感じました。勝てば全国大会に繋がりと、負ければ引退という試合の中では、アウトオブバウンズやファウルの判定の一つ一つを良い位置でしっかりと確認すること、この積み重ねでプレイヤーやベンチからの信頼を勝ち得るのだと改めて実感しました。また、相手審判との協力という観点でいうと、試合の状況の中でこまめにコミュニケーションをとることが大切で、常にコートの中に気を配らなくてはいけないと感じました。普段吹かない中学校のカテゴリーを吹いたことで、チームプレーの動きやプレイヤーの心理面も勉強をすることが出来ました。

結果として、最終日の割り当てを頂けなかったという事実は自分の中でとても悔しいものでした。自分の実力不足を痛感しました。判定に対して、もっとこだわりと正確性を持たなければいけないと感じています。今後自分の課題をより明確にして、これからの審判活動でそれを改善し、次のステップに向けて日々精進していかねばならないと考えています。この経験を次に必ず繋げていきます。

最後に、お世話になりました開催県の三好啓太審判長をはじめ千葉県の審判員の皆様に感謝申し上げます。また、ご指導いただきました関東協会の渡邊整審判長をはじめ今大会に派遣された関東ブロックの審判員の皆様、そして今大会に東京都して派遣推薦をしていただきました久保裕紀委員長に重ねて感謝申し上げます。ありがとうございました。